

# チャノキイロアザミウマ情報第1号

令和4年4月28日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ、カキの防除適期は5月10日から16日と予測します。  
発生状況に注意し、防除しましょう。

## 1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月10日から16日です（表1）。

前年と比較して2月までの気温は低く推移しましたが、4月の気温が高く推移しているため、本年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、ほぼ前年並と予測します。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（4月28日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎
第1世代	5/15	5/16	5/10	5/12	5/14	5/15
（前年）	5/18	5/14	5/12	5/11	5/15	5/16
前年差	3日早	2日遅	2日早	1日遅	1日早	1日早
第2世代	6/12	6/14	6/7	6/8	6/13	6/13

	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/11	5/14	5/16	5/14	6/7
（前年）	5/11	5/13	5/17	5/12	6/8
前年差	±0	1日遅	1日早	2日遅	1日早
第2世代	6/9	6/10	6/14	6/12	7/6

各地のアメダス平均気温から予測。

4月27日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値（2021年））を用いて計算。  
前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

なお、4月28日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か高い見込みです。平年に比べ日平均気温が1℃高く推移した場合は、発生ピークは現時点の予測日より1日から4日早まる可能性があります。

## 2 防除

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。例年発生の多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサンゴジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

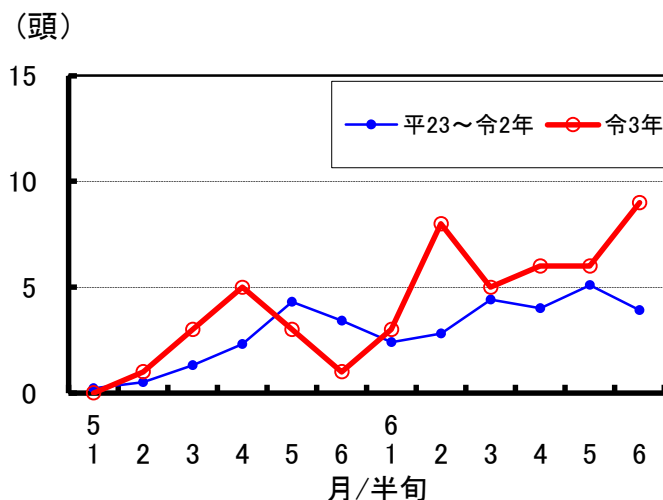


図 東浦町（ブドウ）の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況  
（平成23～令和2年の平年値及び令和3年のデータ）

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤

作物	薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	IRACコード
ブドウ	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫60日前まで	2回以内	散布	13
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	散布	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B
カキ	パダンSG水溶剤	カルタップ	収穫45日前まで	4回以内	散布	14
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2021/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2021/mechanism_irac03.pdf) を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。